

患者の選択を重視した調剤形態による服薬支援と調剤内規の矛盾を考える

(株) ダイチク にいがた調剤薬局

○小島 秀和 井上 幹雄

月岡 良太 大石 美也

Copy right 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

背景

病院内調剤内規(以下、院内内規)は、調剤技術を標準化し調剤過誤を防ぎ、患者に不安を与えない調剤を実施するためには必須である。しかし患者の視点に立ってみれば、狭い地域においても病院ごとに異なり、例えば賦形量においても明らかな見た目の違いを生じる内規があるのが現実であり、院内内規は個々の患者のニーズやQOLに配慮したものとは言えない。

一方、保険薬局において、院内内規を把握して業務を行うことは、特に院外処方せん発行実施初期は患者の混乱を避けるために必要である。しかし、患者は個々に病態、薬剤数、身体的状況等の理由から、院内内規どおりの調剤形態は必ずしも全患者の服薬支援に対応しているとは言えない。当薬局では薬歴簿の存在を生かして、処方せん発行医療機関の院内内規を把握したうえで、個々の患者に調剤形態は選択できることを提案し、治療の主役は患者自身であることを徹底して行う努力をしてきた。

Copy right 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

目的

そこで今回我々は、このような内規外調剤の現状を調査し、その実態と患者背景を把握し今後も増えると予想される患者個々のニーズに柔軟に応えるため過去の事例を再検討した。

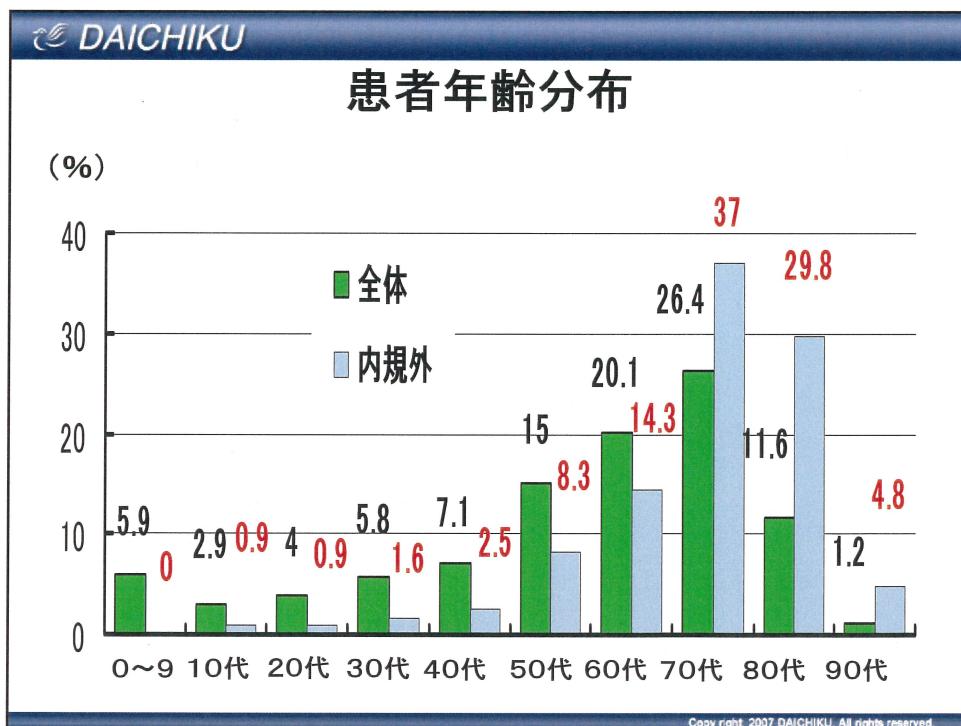
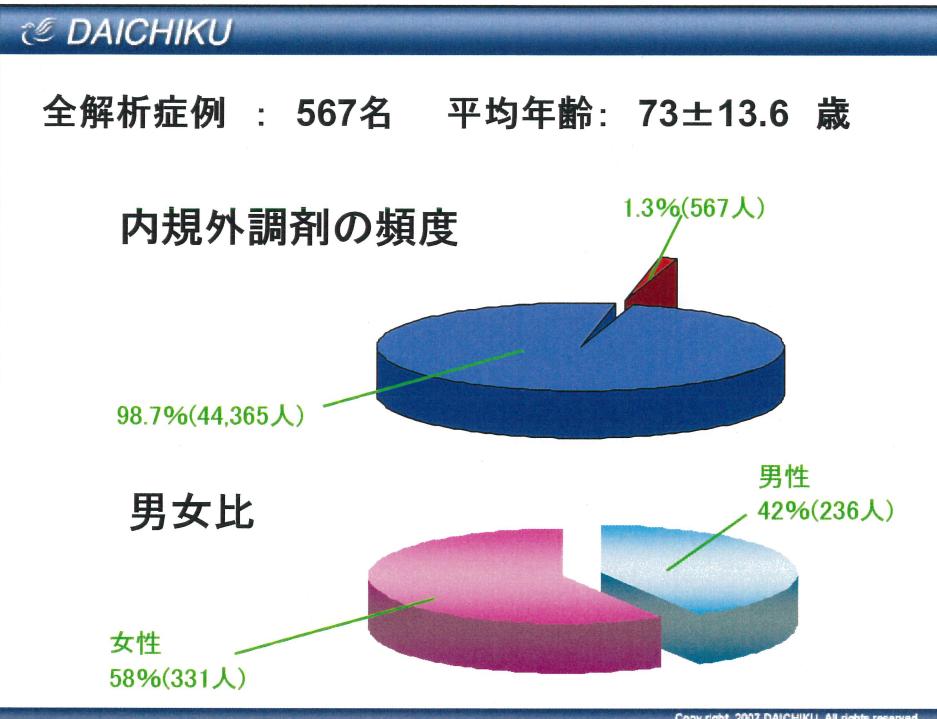
Copy right 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

対象と方法

平成20年6月1ヶ月間に、にいがた調剤薬局全20店舗に来局した患者44,932人のうち、内規外調剤が行われた567名の患者について、以下の内容について検討した。

- ①性別 ②年齢 ③内規外調剤の頻度 ④一包化の有無
- ⑤理由 ⑥診療科 ⑦内規外の調剤形態

Copy right 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

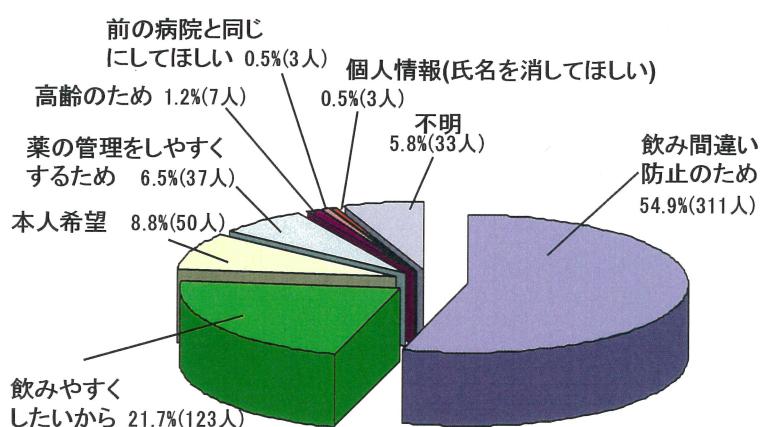


内規外調剤の詳細

調剤形態	件数	調剤形態	件数
薬袋に用法記入	176	散剤に色線を引く	9
1薬剤1薬袋	77	一包化に粉をホチキス止め	8
薬袋に薬効記入	61	完全一包化	7
薬袋加工	58	分包紙を切り離す	7
一包化に色線を引く	38	薬袋に受診科記入	6
半錠	38	薬袋に用法・受診科記入	6
薬袋に用法・薬効記入	27	薬袋に用法・薬効・受診科記入	5
薬袋1つでよい	15	ヒートに薬効記入	4
薬袋に用法用量記入	9	分包紙に切り込みを入れる	3
ヒートに線を引く	9	その他	57

Copyright 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

内規外調剤に至った主な理由



Copyright 2007 DAICHIKU. All rights reserved.



男女別の主な内規外調剤(上位1~5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	薬袋用法記入 (64)	1薬剤 1薬袋 (43)	薬袋薬効記入 (30)	薬袋加工 (26)	一包化色線 (15)
女性	薬袋用法記入 (112)	1薬剤 1薬袋 (34)	薬袋加工 (32)	薬袋薬効記入 (31)	半錠 (27)

()は件数

Copyright 2007 DAICHIKU. All rights reserved.



年齢別の主な内規外調剤(上位1~5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
30代以下	1薬剤1薬袋 (5)	半錠 (4)	一包化色線 (3)	薬袋用法記入 (2)	薬袋加工 (2)
40代	1薬剤1薬袋 (5)	薬袋加工 (4)	薬袋1つでよい (3)	薬袋用法記入 (2)	薬袋用法用量記入 (1)
50代	1薬剤1薬袋 (11)	一包化色線 (7)	薬袋用法記入 (5)	薬袋加工 (5)	薬袋薬効記入 (3)
60代	1薬剤1薬袋 (16)	薬袋用法記入 (13)	薬袋加工 (10)	薬袋薬効記入 (9)	半錠 (8)
70代	薬袋用法記入 (74)	1薬剤1薬袋 (27)	薬袋薬効記入 (22)	薬袋加工 (20)	半錠 (13)
80代	薬袋用法記入 (72)	薬袋薬効記入 (22)	一包化色線 (15)	薬袋加工 (13)	1薬剤1薬袋 (12)
90代	薬袋用法記入 (8)	薬袋薬効記入 (5)	半錠 (5)	一包化色線 (4)	薬袋加工 (4)

()は件数

Copyright 2007 DAICHIKU. All rights reserved.



診療科別の主な内規外調剤(上位1~5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
内 科	薬袋用法 記入 (76)	1薬剤 1薬袋 (44)	薬袋加工 (34)	薬袋薬効記入 (29)	一包化色線 (28)
脳外科	薬袋用法 記入 (66)	薬袋用法 薬効記入 (18)	薬袋薬効記入 (17)	1薬剤 1薬袋 (15)	薬袋 加工 (7)
眼 科	薬袋用法 記入 (20)	薬袋加工 (8)	薬袋薬効記入 (5)	薬袋用法受診 科薬効記入 (2)	薬袋用法受診 科記入 (2)
整形 外科	薬袋用法 記入 (10)	薬袋薬効記入 (3)	1薬剤 1薬袋 (3)	一包化色線 (3)	薬袋 加工 (2)
神経 内科	1薬剤 1薬袋 (8)	一包化色線 (7)	薬袋用法 記入 (5)	薬袋薬効記入 (5)	薬袋1つ でよい (3)

()は件数

Copy right 2007 DAICHIKU. All rights reserved.



内規外調剤を行った患者と一包化

	1位	2位	3位	4位	5位
一包化 あり	薬袋用法 記入 (72)	一包化色線 (38)	薬袋加工 (18)	薬袋用法 薬効記入 (10)	薬袋薬効 記入 (8)
一包化 なし	薬袋用法 記入 (104)	1薬剤 1薬袋 (75)	薬袋薬効 記入 (53)	薬袋加工 (40)	半錠 (29)

()は件数

Copy right 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

まとめ

1. 男女で調剤形態に対する要望に大きな差は無かった。
2. 全体の来局者は60～70歳代に多かったが、内規外調剤を行った患者は70～80歳代に多かった。
3. 内規外調剤を望んだ理由としては、飲み間違い防止のためが最も多く、約半数を占めた。
4. 60歳代までは、1剤1薬袋が第1位となっているが、年代を追うごとに薬袋への用法記入のニーズが高くなってきており、70代以上では第1位となっている。一方で1剤1薬袋は70歳代以上では順位が下がる傾向となった。
5. 一包化の有無にかかわらず内規外調剤の第1位は薬袋への用法記入であった。

Copyright 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

考察

1. 薬の飲み間違いを防止するために院内内規から外れた調剤を行うことは、適切な服用を推進する上で重要な場合もあると考える。
2. 内規外調剤を行った患者背景は多岐にわたり患者固有のものであることが示された。年齢や診療科を考慮し、薬局側からのアプローチが非常に重要である。
3. 60歳代までは、剤数も少なく1剤につき1薬袋とする方がむしろ管理しやすいが、加齢とともに剤数が増えてくると管理上の工夫よりも、飲み間違いに対する懸念が高くなると考えられる。
4. 一包化の有無にかかわらず、求められる内規外調剤は薬袋に対する工夫であった。一包化による服用のしやすさというニーズと薬袋に用法を記入するという薬剤管理上のニーズは別のものであり、それぞれの視点から患者ニーズを検討していくべきと考える。

Copyright 2007 DAICHIKU. All rights reserved.

結語

調剤の形態は患者固有のものであることを理解し、院内内規にとらわれずに患者一人一人に合った調剤形態を考えていくことは、保険薬局に求められる重要な役割である。